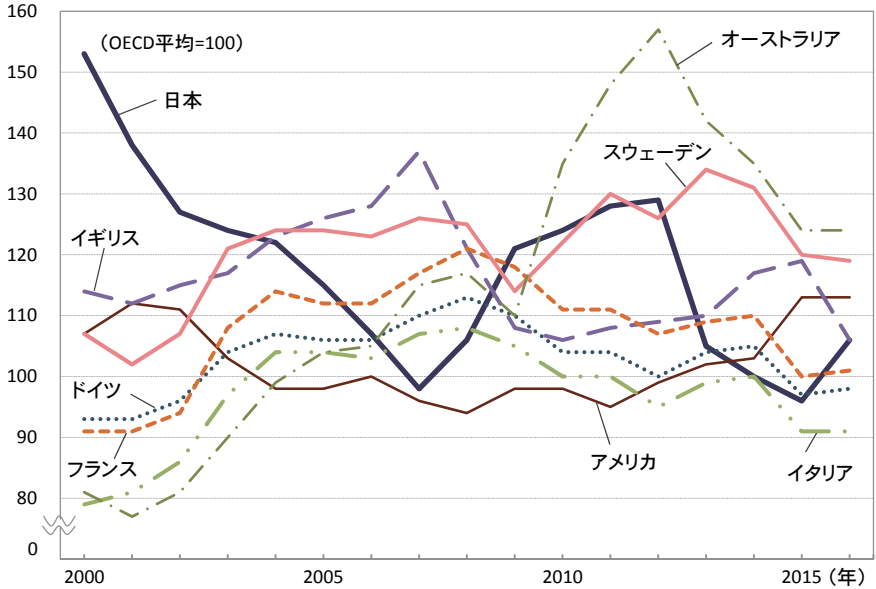


1-3 物価水準（GDPベース）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第1-18表 物価水準(GDPベース)」(p.42)を参照。

上のグラフは、OECDが国内総生産(GDP)の国際比較を行う際に使用する商品・サービス価格とそのウェイト等を使用して算出された物価水準(GDPベースの物価水準)の国際比較を示したものである。2000年代初めに主要国の中で最も高かった我が国の物価水準は下がり続け、2007年には当時のアメリカ並みの低水準を記録した。2012年にかけて上昇した後は再び下がり、2015年にはイタリアに次ぐ低さとなった。2016年は4年ぶりに上昇している。

ここで使用した物価水準は、基準時点(2014年)のGDP購買力平価を為替レートで除して算出されたものである。例えば、ハンバーガー1個が日本で100円、米国で1ドルの場合、為替レートが1ドル80円であれば、日本のハンバーガーは1.25(=100/80)ドルと、アメリカに比べて割高であり、1ドル120円であれば日本のハンバーガーは約0.83(=100/120)ドルと割安となる。この購買力平価と為替レートの比が大きいほど米国に比べ日本の物価が相対的に高い状況を示す指標となる。つまり、両国の物価が一定の下で円高(安)になったときにはこの値は大き(小)くなり、日本の物価は割高(安)となる。この指標を、OECD34か国の平均が100となる指数で示したものがグラフにあらわされている。